

- 小樽港は、今年で開港125年を迎えます。
- 日本を訪れた海外のクルーズ旅客数は2019年で200万人を超えています。
- 小樽市では、経済振興や観光振興を図るべく、クルーズ船を誘致しています。
- 毎年、小樽港には多くの国内外のクルーズ船が寄港し、多くの観光客が訪れています。2020～2021年は新型コロナの影響により寄港はありませんでしたが、2023年はコロナ禍前と同程度のクルーズ船が寄港しました。
- 小樽港に寄港するクルーズ船の概要、クルーズ船誘致や受け入れ等にかかる小樽市の取り組みについてご紹介します。

1. クルーズ船がもたらす効果について

クルーズ船の寄港は食事、土産などのショッピング、観光といった直接的な経済効果を生み出すだけでなく、それらに関連する産業の活動や従業員雇用といった間接的な効果も期待されます。



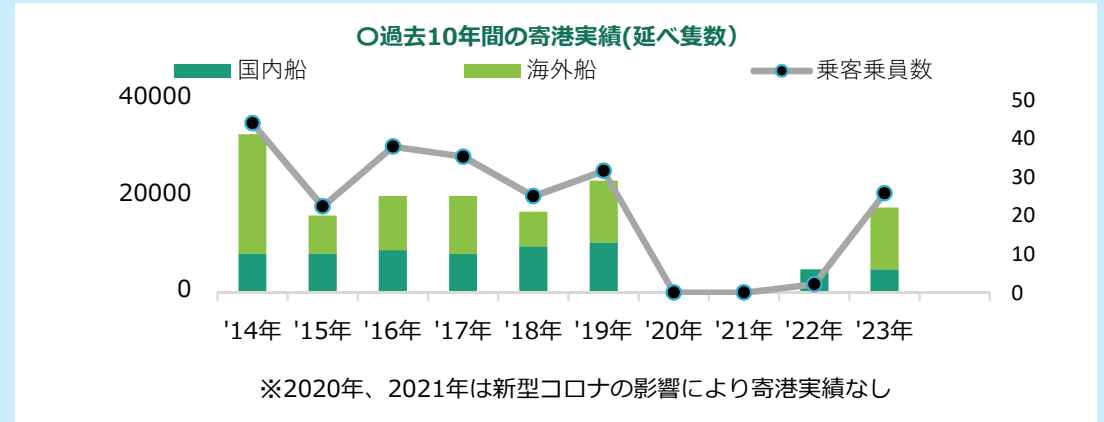
出典：国土交通省HP

また、クルーズ船の寄港は、交流人口の増加及び、地域を越えた人のつながりや、地域の中でのつながりをより強固なものにしています。

2. 小樽港に寄港するクルーズ船の概要

2014年からの10年間で延べ189隻の国内外のクルーズ船が寄港しました。また、乗客は約179,000名でした。

2023年は延べ22隻で、函館港(延べ48隻)に続き全道で2番目に多い隻数です。(2月現在)



○北海道内のクルーズ船の寄港地割合(2023年)



3. 2023年に寄港したクルーズ船

2023年は13隻のクルーズ船が国内外から小樽港に寄港しました。（以下総トン数順に掲載）

ダイヤモンドプリンセス



船籍：イギリス
総トン数：115,906t
定員：3,806名
寄港日：6/18、
8/26、9/26

コスタ・セレーナ



船籍：イタリア
総トン数：114,261t
定員：4,030名
寄港日：6/19

カーニバル・ルミノーザ



船籍：バハマ
総トン数：92,720t
定員：3,186名
寄港日：9/25

クイーンエリザベス



船籍：バミューダ
総トン数：90,900t
定員：3,086名
寄港日：5/27

ウエステルダム



船籍：オランダ
総トン数：82,862t
定員：2,776名
寄港日：4/20

パシフィック・ワールド



船籍：パナマ
総トン数：77,441t
定員：2,934名
寄港日：8/4

バイキング・オリオン



船籍：ノルウェー
総トン数：47,842t
定員：1,475名
寄港日：5/2~3

レガッタ



船籍：マーシャル諸島
総トン数：30,277t
定員：1,084名
寄港日：10/24

にっぽん丸



船籍：日本
総トン数：22,472t
定員：630名
寄港日：8/28、
8/31、9/3、9/6、
9/9、9/12

シーニック・エクリプス



船籍：バハマ
総トン数：17,523t
定員：404名
寄港日：6/6、6/21
7/13

ハンセアティック・ネイチャー



船籍：マルタ
総トン数：15,651t
定員：400名
寄港日：6/25

ル・ソレアル



船籍：フランス
総トン数：10,992t
定員：404名
寄港日：4/10~11

ヘリテージ・アドベンチャラー



船籍：ポルトガル
総トン数：8,445t
定員：140名
寄港日：6/2

定員は乗客乗員数の合計
出典：小樽市HP、小樽観光協会HP

4. クルーズ船にかかる小樽市の取り組み

○誘致活動

- ・2013年に「小樽港クルーズ推進協議会」（事務局:小樽市、小樽商工会議所や小樽観光協会、北後志(余市町、仁木町、古平町、積丹町、赤井川村)の各観光協会のほか、市内及び周辺地域の民間企業から構成)を設立し、クルーズ船運営会社や旅行会社等へ積極的な誘致活動を行っている。
- ・小樽港は新千歳空港に近く、航空機で小樽に来て、小樽からクルーズ旅ができる、いわゆる「フライ&クルーズ」が可能な港であることをPRしている。

○クルーズ船誘致方針

- ・小樽市の総合計画では2028年までに北海道に寄港するクルーズ船の30%の誘致を目指している。
(2023年北海道に寄港したクルーズ船は121隻で、小樽港にはその約18%が寄港した。)

○クルーズ船客への「おもてなし」

- ・市民参加の「小樽クルーズ客船歓迎クラブ」(2008年立ち上げ、現在会員約700名)によるクルーズ船入出港時の出迎え見送り。
- ・クルーズ船出港時、「潮太鼓」(小樽の郷土芸能)、「タヒチアンダンス」、高校の吹奏楽演奏による見送り。
- ・観光案内所を設置し、市内のボランティア団体や小樽市に登録している通訳ボランティア等による**観光案内を実施**。なお、2023年は市内の高校生も参加。また、小樽観光協会や北後志の各観光協会では土産物などの**物品販売も実施**。
- ・クルーズ船客が小樽市内をスムーズに観光してもらうために、市内の大学と作成した**英語の観光パンフレットの配布**。
- ・バス会社やタクシー会社と連携して**クルーズ船停泊港から市内までの路線バスの増便、タクシーの配車協力**。
- ・市内の商店街と協力して商店街で使える**クーポン券の発行**。

このような「おもてなし」はクルーズ船客によりSNS上で取り上げられている。

【おもてなしの様子】



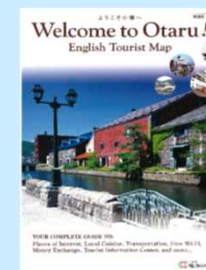
潮太鼓演奏



タヒチアンダンス



高校生による吹奏楽演奏



英語の観光案内



高校生による観光案内

5. クルーズ船にかかる経済効果

◎クルーズ船1隻当たりの小樽市への経済効果は

約 **1,880** 万円

(当所ヒアリングによる金額)

※上記金額はクルーズ船客が実際に消費した金額だけでなく、クルーズ船寄港にかかるすべての費用を含んだ額。

6. クルーズ船客に関する生の声

- ・クルーズ船入港時には、入館者数は普段の2倍近くになる。(観光施設)
- ・クルーズ船が入港した際は、来店客数も増加しており、理美容品、オーディオ機器、文房具の購入が目立つ。(小売店)
- ・クルーズ船を歓迎する装飾を店舗内外にしており、クルーズ船客の反応も良い。(小売店)
- ・生徒の英語力の向上や国際交流を図ることができ、生徒からはクルーズ船客の案内に参加してよかったとの感想が多数聞かれている。(高校)

7.クルーズ船誘致にかかる今後の計画

○今後の活動

- ・誘致では、2028年までに北海道に寄港するクルーズ船の30%を達成するため、**クルーズ船の継続寄港や新規開拓を積極的に進めていく**。（2024年は約30回の寄港の打診を受けている）
- ・おもてなしでは、現在行っている内容の継続、充実を図るほか、クルーズ船客からの要望を取り入れるなどして、**満足度を高めていく**。
特に高校生による観光案内はクルーズ船客から好評であるため、今後も続けていく。
- ・**近隣市町村と連携した受入体制を構築していく**。

○港湾施設整備

- ・現在2か所に分散寄港させているクルーズ船を「**第3号ふ頭**」に集約、整備。

- ★岸壁、ドルフィン(右腕内の水域に杭を打ち込んで作る係留施設)建設
～最大14万t級のクルーズ船も停泊が可能
- ★クルーズ船ターミナル整備
- ★大型バス駐車場整備
- ★観光船ターミナル建設
- ★小樽国際インフォメーションセンター建設
- ★緑地、船溜り整備

○今後の課題

- ・誘致では、クルーズ会社や旅行代理店等の**ニーズの把握やPR資料の充実**。
- ・おもてなしでは、歓送迎を行う人たちの**スケジュール調整やおもてなし活動内容の充実**。



第3号ふ頭周辺の整備イメージ図

8.今後のクルーズ船誘致に期待すること

- ・クルーズ船の誘致により、今以上に小樽市内の経済の活性化や、観光振興が図られることに期待したい。（小樽市）
- ・クルーズ船の誘致により、小樽がクルーズ船客に再び訪れたいと思われる街として、また道央観光地の拠点として、発展することを期待したい。（公共施設）
- ・クルーズ船が増えることにより、インバウンドが増加することを期待している。（小売店）
- ・クルーズ船客への案内経験を通して生徒に今以上に英語力の向上や小樽を知ってもらい、通学時でも観光案内ができるようになってほしいと考えている。（高校）

まとめ

- ・小樽市では官民が協力してクルーズ船客への「おもてなし」に取り組んできました。
- ・第3号ふ頭及び周辺の再整備を通じ、クルーズ船寄港時の利便性の向上を図ることで、これまで以上のクルーズ船誘致を目指しています。
- ・小樽市の基幹産業の1つである観光の一翼を担うクルーズ船寄港数の増加により、小樽市の経済発展、また北海道全体の観光振興につながることを期待されます。